



熊野白浜リゾート空港のあゆみと進化

県の産業や経済を支える重要な交通拠点となっている熊野白浜リゾート空港。県では、より多くの方にこの空港を利用してもらえるよう、さらに大型の航空機を受け入れるための滑走路の延伸や、定期便化を見据えた国際チャーター便の誘致を進めてきました。

また、貨物輸送の実証実験などの新たな試みにも挑戦し、空港が県の未来を支える拠点になるよう取り組んでいます。

熊野白浜リゾート空港のあゆみ

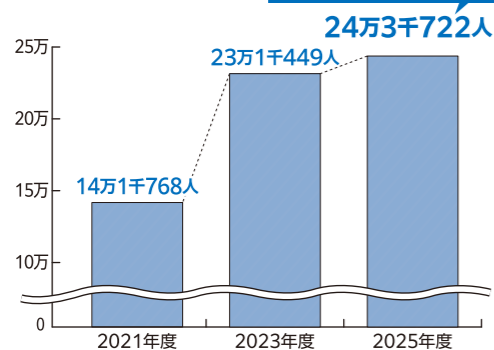
- 1968年 「南紀白浜空港」として開港。プロペラ機のみ就航。
- 1996年 場所を移転し、滑走路を1,800mに延伸。プロペラ機よりも大きなジェット機の就航が可能に。
- 2000年 滑走路を2,000mに延伸。より大型のジェット機の就航が可能に。
- 2019年 空港運営を民営化。(株)南紀白浜エアポートが運営を開始。
- 2023年 国際線ターミナルビルにおいて、国際チャーター便の受入を開始。
- 2024年 空港の愛称を「熊野白浜リゾート空港」に決定。



空港の利用者数の推移(人)

※チャーター便含む

過去最多を記録!



国際線ターミナルビルの2階にあるロビーラウンジ



新潟空港を拠点とするトキエアのチャーター機

国内外と和歌山をむすぶチャーター便の広がり

航空会社や旅行会社と連携して、国内外のチャーター便の誘致活動を行っています。海外からの旅行客には、県内を巡って和歌山の自然や文化に直接触れてもらう機会も提供し、和歌山の国際的な知名度向上にもつなげています。

今後もさまざまな地域のチャーター便運航を実現させ、交流人口の拡大や地域の魅力発信を進めます。

空港周辺とのアクセスを強化

空港と周辺地域とのアクセスを強化し、空港利用者の利便性向上を図るため、空港と近隣の主要スポットを結び連絡バスを実証運行しています。

運行本数：1日3往復 計6便
 停車場所：紀伊田辺駅(田辺市)、朝来駅周辺(上富田町)、白浜駅(白浜町)など 計14か所



詳しくはこちら



地域産品の新しい流通のカタチ

新鮮さと食感が特徴的な地元特産品「モチガツオ」を首都圏へ届ける実証実験を昨年度から開始しました。実験では鮮度を保ったままモチガツオを運ぶことに成功し、今後は協力企業を募るなどビジネス化の実現をめざしています。

また、空輸に適した新鮮なみかんやイチゴ等の農林水産物や精密機器等の工業製品の開拓も進め、空港が「地域産業を支える物流拠点」としても発展できるよう取り組んでいきます。



地元で水揚げされたカツオ

「熊野白浜リゾート空港サポーターズクラブ」がリニューアル!

熊野白浜リゾート空港に興味・関心のある方、空港を応援して下さる方に空港の魅力を知ってもらい、発信してもらうことを目的として、「熊野白浜リゾート空港サポーターズクラブ」をリニューアルしました。会員の方は、最新のキャンペーン・イベント情報の取得や空港内コワーキングスペースが無料で利用可能になります。

詳しくはこちら



クルーズ客船寄港で生まれるにぎわい

近年、和歌山県に寄港するクルーズ客船が増えています。2025年には過去最多の39隻の寄港を記録しました。寄港地域での誘客の取組も活発化し、訪れた人と地域住民との交流も増えています。

主な受入港 ()内は昨年の寄港数

和歌山下津港(18回)
和歌山市内や高野山方面への旅行客が多く訪れます。

日高港(1回)
能の演目で有名な道成寺をはじめ、歴史的な観光スポットへのアクセス良好。

新宮港(18回)
熊野古道などを周遊でき、自然や文化を求める旅行者に人気。



さらなる受入拡大

クルーズ客船の寄港が増えている一方で、港では貨物船も受け入れているため、スケジュールに十分な余裕がないことが課題となっています。県では、さらにクルーズ客船を受け入れるために、大型船が直接着岸できない港湾や漁港でも、小型の船に乗り換えて上陸するなどの取組を地元と調整しながら進めています。



田辺漁港に寄港した小型船

今後の寄港予定の例

7月1日(水)	和歌山下津港	三井オーシャンフジ
8月18日(火)	和歌山下津港	ダイヤモンド・プリンセス
9月21日(月)	日高港	三井オーシャンクラ
10月4日(日)	新宮港	スター・シーカー

和歌山下津港に寄港したダイヤモンド・プリンセス

